

ふれあい新聞

春号

「かみさの家外出 堀内公園にて」



発行日 平成 29 年 4 月 1 日 第 65 号

発 行 社会福祉法人 瑞穂会

ふれあい新聞編集部

本 部 〒 4 4 4 - 0 9 3 6

岡崎市上佐々木町字大官 49 番地

T E L (0564) 3 4 - 3 6 6 6

F A X (0564) 3 4 - 2 3 4 7

平成二十九年度に向けて

特別養護老人ホーム やはぎ苑

施設長 手嶋寛人

昨年3月に成立した改正社会福祉法により、本年4月より社会福祉法人には様々なルールが課せられることになりました。理事会、評議員会の役割の見直し、段階的に会計監査人の導入、財務諸表等の情報公開、地域における公益的な取組の実施等が義務付けられ、これまで以上にコンプライアンス（法令遵守）やガバナンス（管理体制の確立）の強化、透明性の確保が求められようになりました。

一方、当法人においては、本年5月に第三やはぎ苑が橋目町内に開所いたします。今後は隣接する既存の第二やはぎ苑と連携して矢作圏域の地域福祉の向上に全力を挙げて取り組んでまいります。

こうした大幅な制度改正、社会・経済情勢の影響を受けつつも、私たち瑞穂会は、社会福祉法人として質の高いサービスを提供しつづけ、地域にとって欠かすことのできない施設・事業所であり続けるため、

1 人材の確保・育成

また、他産業との競合により、介護人材の確保はますます深刻化、外

国人技能実習制度に介護分野が追加されたこともあり、外国人従事者の迎え入れに積極的に取り組む必要もでききました。

2 組織の見直し等によるガバナンスの強化

3 第三やはぎ苑等、各施設の円滑な運営

4 地域包括ケアシステムへの対応

さらに、平成30年改正に向け議論を重ねている介護保険制度については、自立支援の名のもと、負担増と給付抑制に向け非常に厳しい内容が予想され、4月からスタートする新しい総合事業への移行についても、先行きは不透明な部分が多く、今後の法人・施設運営環境はますます厳しさを増すと思われます。

の4点を平成29年度重点目標に掲げ、ご利用者の皆さんには一定の品質で同じサービスを将来にわたり安定的に継続して提供し続けることができるよう、職員の皆さんには生涯設計が可能な職場となるよう、法人にとつては財務基盤の確立を目指して全力を挙げてまい進します。

平成二十九年度に向けて

特別養護老人ホーム くわがい

施設長 竹内己智子

平成十六年七月にくわがいは岡崎市桑谷町内に開設されました。

その時、私はやはぎ苑ヘルパー室より異動となり、統括相談員兼副施設長として任命され、今日まで従事して参りました。

それから十三年が経過し、今年度からは施設長という大役を拝命することとなり、責任の重大さを改めて痛感しております。

私がやはぎ苑から異動した際にこの「ふれあい新聞」に寄稿させて頂いた文章の中に、「やはぎ苑での一期一会の出会いと共に、「くわがい」で頑張りたい」という一説があります。私は今でもこの言葉を胸に日々、一期一会を体現すべく一瞬一瞬の関わりを大切に働かせて頂いております。

「排泄」一出来る限りトイレで排泄していただくことを大切にし、個々の生活パターンや状態に合わせ、快適に過ごしていただける様に援助しています。トイレでの排泄が困難な方に対しても、清潔を保ち快適に過ごしていただける様に援助をしています。

他職種連携のもと、職員とくわがいでお暮しの方、またデイサービスやショートステイに通われる方の生活の一場面一場面全てが「一期一会」に繋がっていくと考えております。

全ての行為には意味があり、未来に繋がる第一歩になります。今年度、四月からの一步一步私たちに関わる全ての皆様の力になればと思いつき微力ではあります、全力を傾けて職務に当たる所存です。どうぞよろしくお願ひ致します。

「食事」一出来る限り自分の力で美味しく楽しく食事をしていただく為の援助を心がけ、口からの食事が出来なくなつた方に対しても、あきらめることなく最後まで食べていただける方法を模索します。

平成 29 年度

新人職員紹介



① 名前

正規介護職員

② これから抱負

①和田匡史（わだまさし）

②「人に優しく、笑顔を大切に」をモットーに頑張ります。

①柴山夢歩（すぎやま ゆめほ）

②ご利用者様が楽しく生活できるよう精一杯頑張ります。

①大山華奈（おおやま かな）

②笑顔を絶やさず、精一杯頑張ります。

①青山拓真（あおやま たくま）

②一人ひとりの方に信頼して頼つてもらえて人になりたいです。

①太田里莉（おおた さとり）

②ご利用者の支えになれるような介護士を目指します。

①小林 綾（こばやし あや）

②自ら行動し、皆様から頼られるよう笑顔で接していきたいです。

①天草蘭乃（あまくさ らんの）

②利用者の方と笑顔でコミュニケーションをとっています。

①安藤はるか（あんどう はるか）

②毎日明るく元気よく、いろいろなことに積極的に取り組んでいきたいです。

地域密着型小規模特別養護老人ホーム

『第三やはぎ苑』が 5月にオープンします。



開設予定日 平成29年5月1日

予定サービス 「地域密着型小規模特別養護老人ホーム 第三やはぎ苑」

入所定員29名（ユニット型特養、全室個室）

「はじめ 地域包括支援センター」

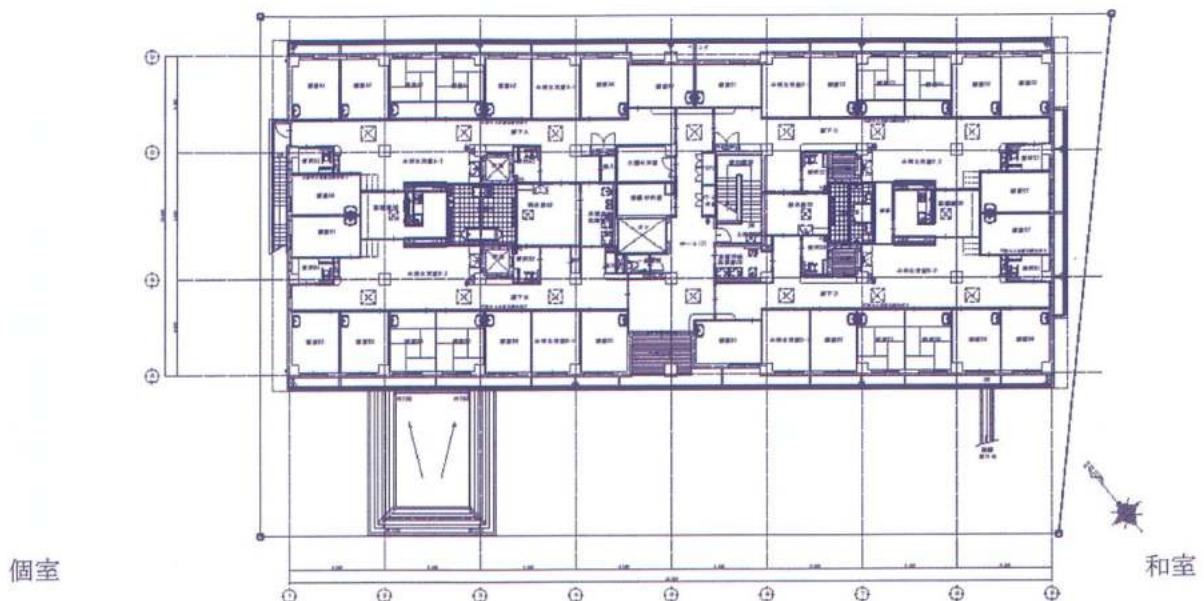
担当地域 矢作北学区、北野学区

※第二やはぎ苑地域包括支援センターから名称変更します。

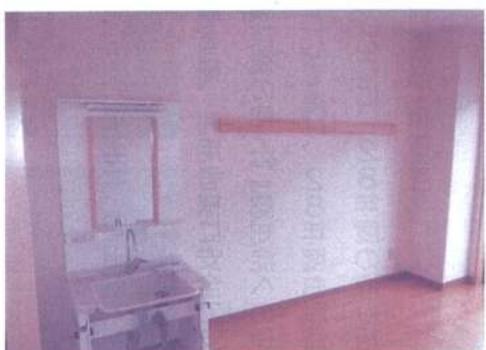
開設場所 岡崎市橋目町字恵香18番地1

※第二やはぎ苑の北隣です。

地域福祉の拠点を目指していきます。



個室 和室



2階配膳室

工事風景



エントランス



外部南西側



外部北東側



～今年度の反省と来年度に向かって～

くわがい介護主任 岡田進太郎

特別養護老人ホームくわがいでは入居者様、利用者様に安全で安心した生活を送って頂けるように『介護技術の向上』『認知症への理解』『24時間シートの充実』を3本柱として掲げ、28年度も職員のスキルアップを図ってまいりました。ここに、28年度の取り組み結果との年度の目標についてレポートさせて頂きおもす。

『介護技術の向上』

施設での生活の中にはベッドから車いすへ移ったり、車いすから便座へ移つたりと「移る」という行為が頻回に行われます。ご自身の力がある方へはできる限りその力を使って頂けるような環境の整備や関わりを心掛け、援助が必要な方に対してはお年寄り個々の能力に合わせ介助方法を統一させて少しでも負担のかからないようなサポートを実施しています。

近年、特別養護老人ホームへの入居は原則要介護3以上と定められ、施設で暮らしてみえる入居者様、利用者様も重度化が進んでおります。体の大きな方や下肢に力が入らない方、ベッド上で動くことのできない方に対して力任せに介助を行えば当然、対象者の方には負担を与えるだけではなく、怪我をさせてしまう恐れもあります。

また、施設で起きてしまった事故については事故に携わった職員だけでなく相談員やケアマネ、介護主任も交えて事故の分析を行い、再発防止に努めています。

そこで、28年度は個別化した移乗方法の習得をする1つを1つの目標にして取り組みました。一昨年度からくわがいではスライディングシート、スライディングボードを用意しております。

これらを体の下に敷くことによって、対象者の方が寝たままで、座つたままでも安楽に体を滑らせ移乗を行うことができる物になります。用意した当初は、本来の使用方法とは異なっていたり、職員の自己流になっていたこともあります。しかし、理学療法士から直接指導を受けることによって使用方法を理解でき、指導を受けた職員が指導者となって伝えていき、現場へ広めていくことができています。正しい使い方を覚えたことで、移乗時における入居者様、利用者様への負担も軽減できていると思います。



2年の年度はスライディングシート、スライディングボードを更に活用して、より安全で負担のかからない移乗介助を行えるように努めてまいります。



『認知症への理解』

28年度は各ユニットで認知症について学ぶ機会を設けて、入居者様、利用者様の対応に繋げていくことになっておりましたが、どのユニットも人手が薄く業務以外で時間を設けることが困難な状況がありました。そのため、認知症について学ぶ機会を設けることはなかなかできませんでしたが、各ユニットに用意してある身体拘束チェックリストをもとに、認知症の方への関わり方の見直しや対応の改善に努めました。業務に追われてしまふことで対応が疎かになってしまっていたユニットでは、業務の見直しや職員の連携の取り方などを確認することじで、心にゆとりを持たせることができる、対応にも反映されてきています。

まだまだ認知症に対する知識や関わり方に於いて未熟な部分があるため、各ユニットで身体拘束チェックリストを用いて課題をつけ、知識を増やし対応を改善させていきたいと思います。

『24時間シートの充実』

入居者様が「自分らしい生活」を送れるように「くわいでは一人ひとりに24時間軸での暮らししぶりが表記された24時間シートを作成しており、シートに記された内容に沿ってケアを提供することとで職員のケアを標準化するために活用しています。28年度はより個々のシートの内容を充実させるために、24時間シート委員会にて記入方法や必要事項を検討して、各ユニットに伝達、指導を行つことで職員の24時間シートに対する意識の向上に繋がったり、シートに記される内容も増やすことができました。また、ご家族様の協力もあり情報を得ることができ、この1年でシートの内容は充実させることはできてきたと思いますが、入居者様に適切なケアを提供するためには「情報を収集してアセスメントする」とこれの繰り返しが必要になってきます。毎日の関わりの中で、どれだけの情報を得ることができるか?それをどうケアに繋げていくことができるのか?この部分がこれからは課題となってきます。

今後も入居者様、利用者様にとって住み良い場となるように24時間シートを充実させていきますので、今までその方が大切にしてきた「こと」「やの」「ことば」様々な情報を職員に伝えてくださるようお願いします。

29年度についても『介護技術の向上』『認知症への理解』『24時間シートの充実』の3本柱を立て、入居者様、利用者様の笑顔が絶えないように生活を支えていくよう取り組んでまいります。

グループホームかみさの家

(2月3日) 節分の日

鬼の人形を前にして、「鬼は～そと！！ 福は～うち！！」
大きな声を出して豆を投げました



(3月3日) ひな祭り

立派な段飾りを背にして、皆さんすまし顔(^^)/



(3月29、30日) 堀内公園散策

暖かい日差しの中、堀内公園にお花見に出掛けました。
しかし、今年は桜の開花が遅れ、まだ一輪も咲いておらず、残念。
でも、皆さん「花より団子」でしょうか、手作りのお弁当をおいしそうに
食べてみました。
童心にかえって汽車やメリーゴーランドに乗り、楽しい時間を過ごしました。



地域密着型小規模特別養護老人ホーム

地域密着型小規模多機能

地域包括支援センター

第二やはぎ苑

平成29年度の取り組み

『地域』をキーワードに、ご利用者やご家族、地域の方から選ばれる施設を目指しています。今年度の取り組みと併せて、ご紹介いたします。

小規模特別養護老人ホーム

第二やはぎ苑

介護が必要になっても、最期まで自分らしく、
穏やかにお暮しいただける『生活の場』を目指します。
そのために、職員の自己研鑽、暮らしやすい場所づくり、
地域とのつながり強化に取り組んでいきます。



音楽療法活動の様子

小規模多機能

総合マネジメント

地域のつなぎ役



ご近所さん 地域の商店



小規模多機能

やはぎ苑

おひとりおひとりが、住み慣れた地域で、安心して今までの生活を続けていくことができるよう、
地域のつなぎ役として、暮らしを支えていきます。
そのために、多機能サービスを地域の皆様へ知って
いただき、他事業所とも連携をしながら、地域の
福祉拠点を目指していきます。

地域包括支援センター

第二やはぎ苑

開設して1年が経過しました。

引き続き、顔の見える人間関係を大切に、
地域包括ケアシステムの推進を担う中核機関として
機能することを目指していきます。

5月から名称が変わります

『はじめ地域包括支援センター』
として、第三やはぎ苑に事務所を
構えます。よろしくお願いします。

やはぎ苑・くわがい・グループホームに
防犯カメラが設置されました。

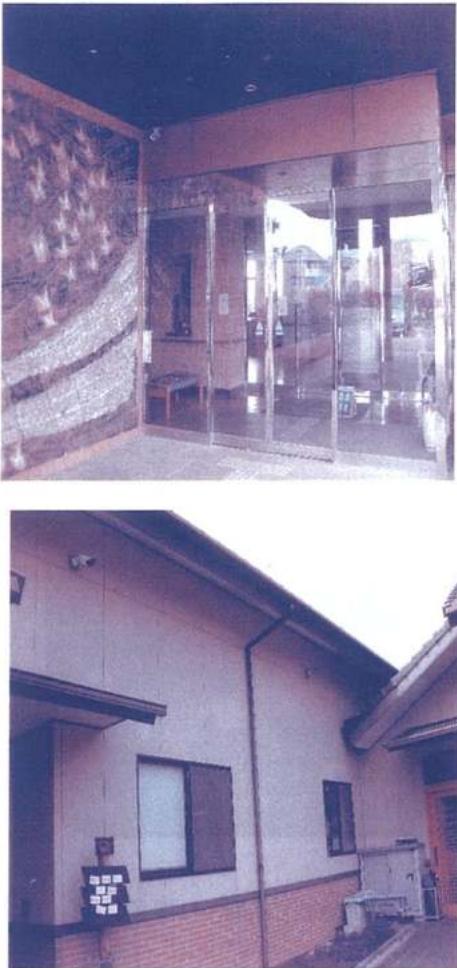
「ありがとうございました。」

ご寄付・ご寄贈
(平成二九年一月～三月)

昨年の7月相模原市の障害者施設で事件以来、福祉施設では、入居者および職員を守るため、今まで以上の対応が求められるようになりました。

そこで、社会福祉法人瑞穂会でも、この度防犯対策の強化の一環として、「やはぎ苑」・「くわがい」・「グレープホームかみさの家」の3施設に防犯カメラを設置しました。

今後他施設も含めさらなる防犯対策を進め、安全確保に努めて参ります。



編集後記

* 中部電力検針集金労働組合 岡崎地方本部 様

* * *

稻川ふじえ

谷澤直人

林健一

様様

プロ野球ソフトバンクの千賀滉大という選手をご存知でしょうか？3月に行われたWBCで大活躍をした投手ですが、プロへの入団は育成ドラフト4巡目の選手として入団した無名の選手でした。それがなぜ日本を代表するような選手まで成長したのでしょうか？それは、本人が人より上手くなりたいと思うハンガリー精神を持ち続けたことと同時に、小さな失敗ですぐに烙印を押すような指導者でなく、忍耐強く情熱をもつた指導者に巡り会えたからではないでしょうか。

今年度入ってくる新人職員の皆さんも。常にハンガリー精神を持ち続け貪欲に先輩たちの教えを吸収して、プロの介護士として大きく育つて頂きたいと思います。